



# 令和3年度決算概要

財政課

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



令和3年度において、市民の皆さんに納めていただいた税金などが、どのくらい入り、どのように使われたかをお知らせします。



## 一般会計

一般会計歳入歳出決算の差引額は20億9,758万1千円となり、翌年度への繰越額8,665万3千円を除いた実質収支額は、20億1,092万8千円となりました。

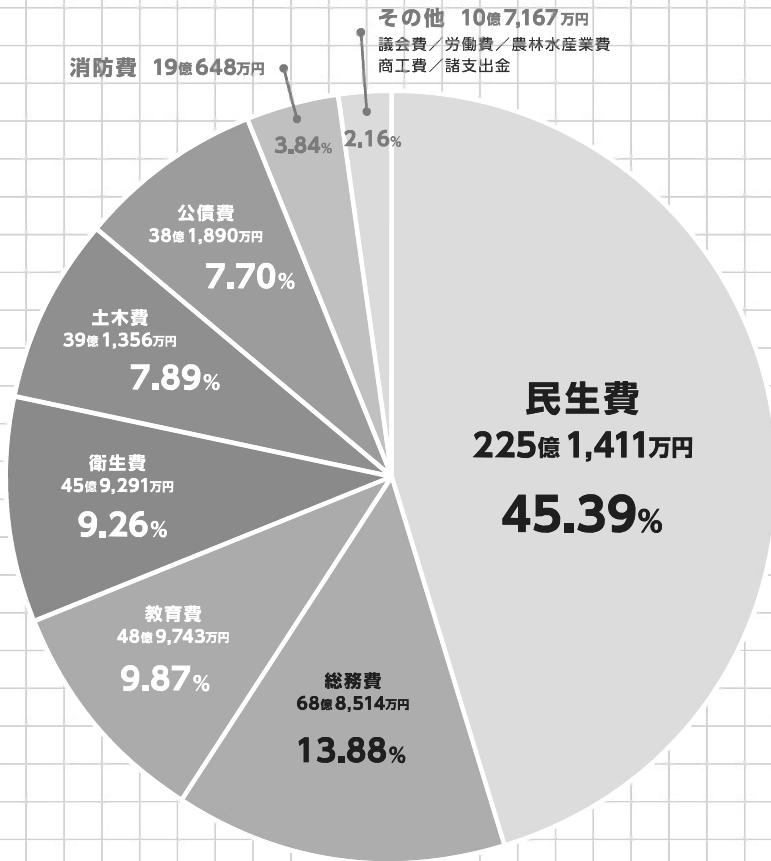
予算現額537億2,899万9千円と比較すると、歳入は96.2%、歳出は92.3%の執行率でした。また、前年度決算額と比較すると、歳入は88億1,705万3千円、率にして14.6%の減額、歳出は96億3,281万円、率にして16.3%の減額となりました。

市民1人当たり(令和4年3月31日現在の人口146,074人)の市税負担額は約14万円、市民1人当たりに使われた額は約34万円となりました。

なお、財政調整基金(貯金)は、前年度末より16億9,470万9千円増加し、年度末残高が38億8,598万7千円となりました。

# 歳出

## 496億 21万円



### ● 民生費

住民が一定基準の生活と安定した社会生活を保障するのに必要な経費で、具体的には社会福祉、障害者、高齢者、児童福祉、生活保護及び災害救助関係に使うお金

### ● 総務費

一般的な事務や企画調整事務、財政・財務管理、財産管理、統計、徴税、職員の人件等に使うお金

### ● 教育費

学校教育や社会教育に使うお金

### ● 衛生費

市民の健康管理やごみ処理に使うお金

### ● 土木費

道路やまちづくりなどに使うお金

### ● 公債費

借入金の返済や利息を支払うためのお金

### ● 消防費

消防設備や消防団運営に使うお金

### ● 議会費

市議会の運営を行うために使うお金

### ● 労働費

労働施策のために使うお金

### ● 農林水産業費

農業振興に使うお金

### ● 商工費

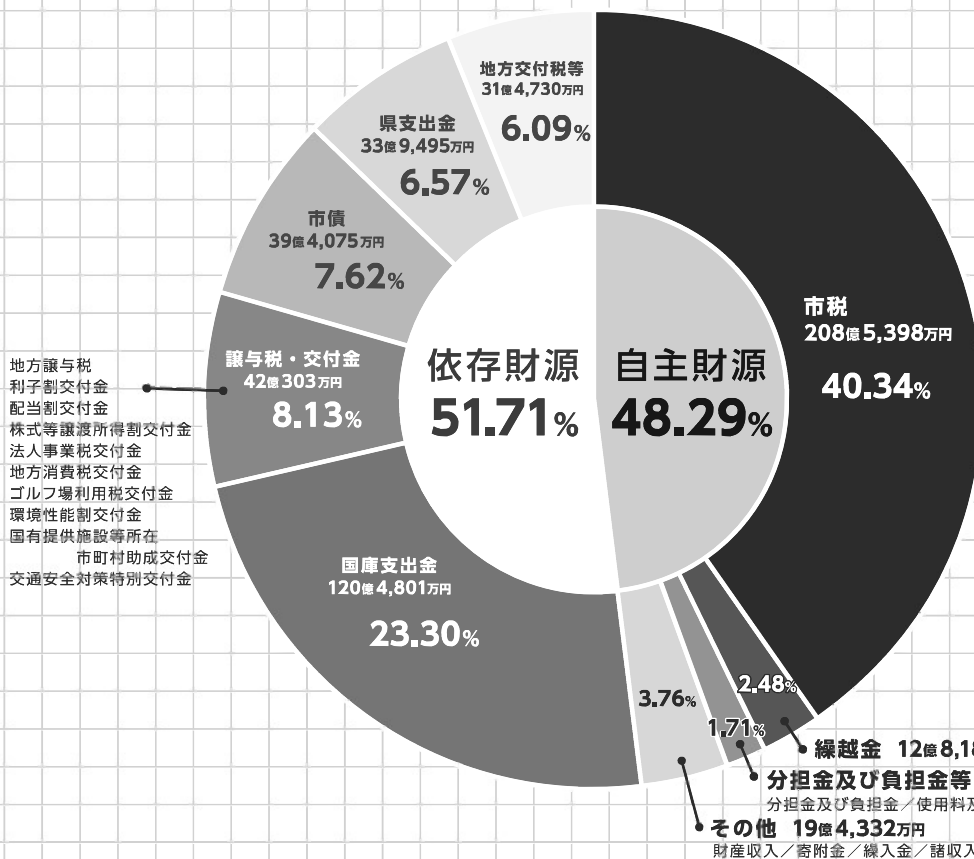
観光や商工業の振興に使うお金

### ● 諸支出金

行政目的を有しない経費にあてるお金

# 歳入

## 516億 9,779万円



● R4.3.31現在人口  
(人口統計資料 R4.4.1現在人口)  
**14万 6,074人**

● 市民一人当たりの市税負担額  
**14万 2,763円**

● 市民一人当たりに使われた額  
**33万 9,555円**



## 特別会計

特別会計は、特定の事業について会計を別にし、お金の出し入れを明確にしている会計です。

特別会計	歳入	歳出
国民健康保険	149億2,430万円	147億5,668万円
後期高齢者医療	19億4,227万円	19億3,300万円
介護保険	117億4,627万円	111億388万円
武蔵藤沢駅周辺 土地区画整理事業	1億2,855万円	1億2,431万円
入間市駅北口 土地区画整理事業	8億873万円	7億2,980万円
扇台 土地区画整理事業	4億8,027万円	3億8,163万円

## 公営企業会計

市が水道事業・下水道事業を経営するために、別に設けている会計です。

	収益的収入	31億1,340万円
水道事業	収益的支出	27億5,339万円
	資本的収入	5億8,715万円
	資本的支出	10億9,620万円
下水道事業	収益的収入	24億2,745万円
	収益的支出	21億9,712万円
	資本的収入	2億9,417万円
	資本的支出	10億5,113万円

## 健全化判断比率・資金不足比率

	比率の説明	警戒ライン	入間市の算定結果 (3年度決算)
①実質赤字比率	一般会計等の赤字額を表す比率	11.91%	赤字なし
②連結実質赤字比率	市全体の赤字額を表す比率	16.91%	赤字なし
③実質公債費比率	その年度の借金の返済額(公債費)を表す比率(3カ年平均)	25.0%	3.1%
④将来負担比率	市が将来負担する可能性のある借金(債務)を表す比率	350.0%	4.4%
⑤資金不足比率	公営企業会計の資金不足額(赤字額)を表す比率	20.0%	資金不足なし

①②⑤は、いずれも黒字のため、比率は発生しません。

## 市の借入金(借金)をお知らせします

令和3年度末における市全体の借入金(借金)の残高は、401億9,348万円となりました。会計ごとの内訳は下表のとおりです。

会計	令和3年度末残高	令和2年度末残高	残高増減額
一般会計	318億3,583万円	316億1,468万円	2億2,115万円
水道事業会計	23億7,302万円	20億9,976万円	2億7,326万円
下水道事業会計	55億5,433万円	59億9,481万円	▲4億4,048万円
合計	397億6,318万円	397億925万円	5,393万円



## 新型コロナウイルス感染症対策事業 決算概要

問 企画課

市(水道事業を含む)が実施した新型コロナウイルス感染症対策に関する事業費の令和3年度決算総額は、49億8,197万円でした。  
うち、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金対象事業は4億9,769万5,070円であり、その主な事業は次のとおりです。

- **自宅療養者支援事業 事業費 2,170万444円**  
新型コロナウイルス感染症の陽性者及び濃厚接触者に対し、2日分(6食)の食料品の配食サービスを行いました。【配食サービス実績】6,887食
- **緊急かわら版発行事業 事業費 1,397万7,463円**  
広報紙より早く市民にお知らせする必要がある新型コロナウイルス感染症に特化した内容を掲載し、「広報いるま号外」として12回発行しました。
- **ニューノーマルにチャレンジ事業者支援事業 事業費 9,318万3,248円**  
事業者がアフターコロナ・ウィズコロナにおいて、事業拡大や「ニューノーマル社会」に対応できる事業者となるべく、対象事業者に対し一律5万円を支給しました。
- **児童・生徒の教育環境向上事業 事業費 4,381万8,918円**  
新しい生活様式を守りながら、学校のICT環境を充実させ子供たちの教育環境の向上を図るため、大型テレビモニターやプロジェクター等を購入し、市内の小中学校に導入しました。
- **学校感染症対策事業 事業費 1,701万9,464円**  
感染症対策のため毎朝実施している健康観察及び保護者との連絡について、健康観察アプリ及びサーモカメラを導入しました。また、適切な換気を行うため二酸化炭素濃度測定器を、具合の悪い児童・生徒に対して適切な対応を図るためパルスオキシメーターを購入しました。